

大正三年十二月

鹽專賣史

專賣局

序言

鹽ハ人生ノ必需品ナリ而シテ其ノ消費量ハ貴賤貧富ニ由リテ甚シキ異同ナシ故ニ之ニ對シテ財源ヲ求ムレハ其形式ノ專賣タルト租稅タルトヲ問ハス實質上人頭稅ノ性質ヲ有シ負稅公平ノ原則ニ反ストノ議論ハ學說トシテ又政治論トシテ古來唱道セラルル所ナリ然レトモ又一方ヨリ見レハ元來各個人ノ鹽消費量ハ比較的少キモノナルカ故ニ之ニ對シテ財源ヲ求ムルモ事實上甚シキ苦痛ヲ與ヘサルヘシ即チ各個人ノ犧牲ハ少キモ何人モ之ヲ負擔スルカ故ニ國庫ノ財源トシテ之ヲ綜合スルトキハ其ノ收入比較的的多シ又鹽ノ消費量ナルモノハ自ラ一定シ時勢ノ浮沈ニ依リテ變動セサルカ故ニ其ノ收入額ハ比較的確實ナリ故ニ此等ノ點ヨリ見ルトキハ國庫財源トシテハ好箇ノモノタルヲ失ハス是ヲ以テカ西洋各國ニテモ學者政治家等ノ議論アルニモ拘ラス財政上ノ必要ヨリ概ネ鹽ニ對シテ財源ヲ求メ居レリ我國ニテモ明治三十七八年事件ニ際シ戰時並戰後ノ必要經費ヲ支辨スルカ爲ニ遂ニ鹽專賣制度ヲ決行スルニ至リタルカ元來議論アル財源ナルカタメニヤ爾來本法ニ對スル苦情少カラス非常特別稅タリシ織

物稅、通行稅ト併セテ三惡稅ト稱シ時論ニ於テ或ハ帝國議會ニ於テ殆ト毎年非難又ハ廢止ノ聲ヲ耳ニスル程ナリキ然レトモ歷代ノ內閣ハ其ノ財政政策上之ヲ維持スル必要ヲ主張シ依然今日マテ存續シ近年ニ至リテハ最早非難ノ聲モ絶ヘ確固不動ノ財源トナリタルモノト認ム然レトモ從來右ノ如ク非難アリタルヲ以テ政府ハ本法制定以來之ニ對シテ改良ヲ加ヘシコト一再ニシテ止マラス即チ鹽價ノ制限、回送販賣ノ制度、賣捌機關ノ配置、運賃ノ負擔、鹽價ノ均一、鹽田ノ整理、臺灣鹽關東州鹽ノ輸入、一般鹽價ノ低減、農工業鹽ノ特別取扱等其ノ改善ハ頻年行ハレ殆ト枚擧ニ遑アラサレハ今ニシテ其ノ事跡ヲ明ニセスハ將來或ハ混亂シテ收拾スヘカラサルニ至ラントス此ノ如クハ將來ノ執行當局者ハ既往改廢ノ事實ヲ繰返シ或ハ無用ノ施設又ハ逆轉ノ計畫ヲ爲スニ至ルヤモ計リ難シ故ニ今ヤ本制度ノ殆ト確立シタル時期ニ於テ既往ノ經路ヲ詳細ニ探查記述シ以テ向後ノ參照ニ資スルコト決シテ徒爾ノ業ニアラサルヘシ之レ本史ヲ草セル所以ナリ

大正三年十二月

專賣局

凡 例

一 本書ハ大正二年十二月末ニ至ル沿革ヲ記述ス

一 本書中訓令、達、通牒ニシテ關係各鹽專賣官署ニ對シ發シタルモノハ其ノ

官署名ノ記入ヲ省略ス